

2021年NGKスパークプラグ杯 鈴鹿サンデーロードレース最終戦 参戦報告書



1年の締めくくりとなる伝統のNGK杯で見せた各選手の力走
インター、ナショナル各クラスの王者をSRS勢が独占する

12月4日(土) 公式予選 8:00~8:20 ◎天候・路面: Fine/Dry

- #18 江澤伸哉・予選2位 #56 小田喜阿門・予選3位
#52 上江洲葵要・予選4位 #6 堀井颯大・予選12位
#17 永山陽梨・予選24位

鈴鹿サンデーロードレースで実戦を経験してきたSRS-Motoアドバンス生。その締めくくりとなる戦いの舞台、第57回NGKスパークプラグ杯鈴鹿サンデーロードレースは、インタークラスの江澤伸哉、ナショナルクラスの堀井颯大がともにポイントリーダーで迎えるレースとなった。なお今回はアドバンス生は総勢5名が参戦し、中村煌がケガにより欠場となった。

午前8時、20分間の予選が始まった。小田喜阿門、江澤伸哉、上江洲葵要が3台で連なってコースイン。堀井颯大、永山陽梨は集団の中ほどに位置取ってタイムアップを狙う。小田喜は積極的にグループの前を走り、江澤、上江洲もその後方で周回、セッション序盤から予選上位につける。だが6周目の1コーナーで突如上江洲のマシンが失速し、そのまま走行を終えてしまう。

6周目に小田喜が2分21秒847を記録してトップに浮上し、その次の周、すかさず江澤が小田喜のタイムを更新してトップを奪った。SRS勢が予選上位を独占すると思われたが、セッションの最終ラップに逆転され、江澤が予選2位、小田喜は3位で続き、マシンを止めてしまった上江洲が4番手となった。堀井は思うようにタイムを上げられず、ピットインして仕切り直すもののリズムをつかみきれずに12番手で予選を終え、永山もタイムが伸び悩み、24番手という結果となった。

12月5日(日) 決勝レース(フルコース8周) ◎天候・路面: Fine/Dry

- #56 小田喜阿門・総合1位/ナショナルクラス1位/NSFチャレンジクラス1位
#18 江澤伸哉・総合4位/インタークラス3位/NSFチャレンジクラス2位
#52 上江洲葵要・総合6位/インタークラス5位/NSFチャレンジクラス3位
#6 堀井颯大・総合15位/ナショナルクラス5位/NSFチャレンジクラス5位
#17 永山陽梨・総合21位/ナショナルクラス11位/NSFチャレンジクラス8位

ポールシッターの仲村瑛冬選手が決勝スタート直前にトラブルでピットに入り、ポールポジション不在でウォームアップラップがスタート。だがS字で江澤がまさかの転倒、チャンピオンは絶望という状況に。江澤不在でレースはスタートするが、ピットスタートした仲村選手がS字で激しく転倒。レースは赤旗中断となった。この間にピットに戻った江澤は、メカニックにより損傷したマシンが超特急で修復され、奇跡的にもレースに復帰することができた。

8周に短縮されたレースが再スタート。予選3位の小田喜が抜群の伸びを見せてホールショットを奪うと、オープングラップを1位で周回。江澤も上々のスタートで小田喜に続き、上江洲は5位で1周目を通過。堀井はスタートで出遅れ、永山はスタート直後の2コーナーで発生した多重クラッシュを回避してコースアウトしてしまった。

トップを走る小田喜の直後には江澤を含めた数台が続く。5周目の日立アステモシケンでは江澤がトップを奪うものの、小田喜もすぐさまトップを奪い返す。小田喜は後続の度重なるアタックをことごとく退ける堂々の走りでサンデー初優勝を飾った。総合4位の江澤はインタークラス3位となり、一度は逃しかけたチャンピオンを獲得。総合6位の上江洲はランキング2位という結果となった。堀井はナショナルクラス5位でゴールし、クラスチャンピオンに輝いた。スタート直後の混乱に巻き込まれた永山も、レースをあきらめることなく、総合21位でゴールしている。



2021年NGKスパークプラグ杯 鈴鹿サンデーロードレース最終戦 参戦報告書

ナショナルJ-GP3クラス

予選総合3位/決勝(総合)1位・(クラス)1位・(NSFチャレンジ)1位

小田喜 阿門(おだき あもん) 13歳

『初優勝することができました。前に誰もいない状況で受けるチェッカーはやはり気持ちがいいですね。とはいえ、ここからが本当のスタートだと思っています。予選はずっと先頭を走ってタイムを狙いましたが、最後に江澤選手がレースシミュレーションみたいに前に出てきました。結果は3番手で、自分としてはもっと行けると思っていただけにちょっと悔しかったです。決勝では気持ちを切り替えてグリッドに並びました。スタートは赤旗前もその後もホールショットを取ることができましたが、レース序盤、3周目まではタイヤのグリップや路面を探りながら走りましたが、ラップタイムを確認すると(2分)24秒台と遅かったので、様子を見すぎってしまったのかもしれない。その後ペースを上げることで集団が絞れて、レース展開が楽になり、気持ち的にも余裕が持てました。今回はレースウィークの始めから調子が良く、自信を持って走ることが出来ました。路面が濡れたコンディションも得意なので、そういった点も自信を持って走ることが出来た要因です。狙い通りのレースが出来ました』



インターJ-GP3クラス

予選2位/決勝(総合)4位・(クラス)3位・(NSFチャレンジ)2位

江澤伸哉(えざわ しんや) 15歳

『指をケガしていたので、今回はリハビリ兼チャンピオン狙いと考えて臨みました。ウォームアップでの転倒でチャンピオンが厳しくなりましたが、メカニックの方々が総出でマシンを直していただきました。また、メンタル面でのアドバイスだったり、アライさんやヒットエアさん、クシタニさんの迅速な対応のおかげでレースを走ることが出来ました。SRSという環境の凄さをあらためて感じられて、本当に感謝しかありません。レースに携わっていただいている人達への感謝を忘れず、1周1周を無駄にせず走ることの大事さを強く感じています。今シーズンは開幕から3連勝し、全日本でモランキング7位、2位表彰台にも上れました。シーズンの後半はケガがなかなか治らずバイクに乗れない日々が続きました。いつでも乗れる状態にはしていたつもりでしたが、今回のレースは感覚をなかなか取り戻せませんでした。もっと冷静になっていれば転倒は防げたのではないかと考えています。チャンピオンという結果は残せましたが、今回のレースに関しては過程は悪かったです。今後に向けて反省しないといけないポイントです』



インターJ-GP3クラス

予選総合4位/決勝(総合)6位・(クラス)5位・(NSFチャレンジ)3位

上江洲 葵要(うえず あおい) 15歳

『レースウィーク前から車体にトラブルが出ていて、気持ち的に下がってしまいました。予選でも、路面温度が上がってきてこれからというタイミングでトラブルが発生し、初めて履いたソフトタイヤのフィーリングも満足に活かすことができませんでした。決勝ではスタートが上手く決まり、トップ争いが出来ていたんですが、まさかの赤旗がでてしまい、2回目のスタートではミスをして先行を許してしまいました。それでも、トップグループの中で走れば上を狙っていけると思っていました。コーナーは自信があったんですが、バックストレートで思うようにスピードが伸ばせず、最後まで集団の後ろというレースでした。今シーズンは浮き沈みが激しかったです。気持ちで結果が左右されるのが自分のいいところでもあり悪いところ。それが分かっていたので、いい流れを作ってウィークに臨みたかったです。メンタルコントロールの大事さを理解することができたシーズンでした』



2021年NGKスパークプラグ杯 鈴鹿サンデーロードレース最終戦 参戦報告書

ナショナルJ-GP3クラス

予選総合12位/決勝(総合)15位・(クラス)5位・(NSFチャレンジ)5位
堀井 颯大(ほりい そうた)16歳

『路面状況が良くない中での予選で、位置取りをミスしてしまい、攻められるところと抑えるところの判断も悪かったです。その結果、短い予選時間の中で思ったようにタイムを伸ばすことができませんでした。決勝ではスタートで失敗して後方に落ちてしまい、そこからの追い上げにかなり苦戦しました。1周目が大事だということはわかっていたつもりでしたが、なかなか前のライダーを抜くことが出来ず、パッシングポイントの判断も迷ったままのレースとなってしまいました。今シーズンは苦しい一年でしたが、自分としては人間的に成長できたのかなとは思っています。レースは準備がいちばん大切です。日常からレースやバイクとの向き合い方、努力といったことを意識できるようになりました』



ナショナルJ-GP3クラス

予選総合24位/決勝(総合)21位・(クラス)11位・(NSFチャレンジ)8位
永山 陽梨(ながやま ひな)14歳

『予選でいいタイムを出すことが出来ず、その結果がそのまま決勝にも響いてしまいました。練習で自己ベストタイムを出すことが出来たんですが、特別スポーツ走行の際のマシントラブルが恐怖心になってしまい、バイクに対しての信頼を持つことが出来ず、慎重になり過ぎたと思います。スタートは良いのですが、その後は上手く対応することが出来ていません。回りをよく見てレースをどう組み立てていくかが自分にとっての大きな課題、改善しなければいけないポイントです。今シーズンは開幕早々の転倒による怪我で恐怖心が出てしまい、それがずっと響いてしまいました。結果に関しても、自分の目標にはまだ遠いですし、考え方にも甘さが残っています。準備が足りていないことも多かったです。怪我している間のトレーニングとか、バイクやレースに対して考えることは今まで以上に増えましたが、まだまだ足りていないと思います』



岡田忠之 Principal

『江澤伸哉は指のケガからの復帰レースでしたが、そんな状況でも一時トップを走っています。ただし、レースは何よりも結果です。ウォームアップの転倒はヒヤッとしましたが、チャンピオンという結果を残せたのは本当に良かったですね。優勝した小田喜阿門はここ2戦ノーポイントレースが続いていましたが、ようやく初優勝が出来て本人も嬉しそうでした。まだ直すべき点は残っているので、今後も頑張ってもらいたいですね。堀井颯大は序盤コース状況の判断が遅れたのが結果が伸び悩んだ理由のようです。高い目標と現実の差が悩みになっているようで、レース前は結構落ち込んでいました。とはいえ本番でなんとか立て直し、無事クラスチャンピオンを獲得できました。上江洲葵要は、今回は自分のペースが作れませんでした。難しいコンディションの中で判断に悩み、なかなか前に出られなかったようです。優勝した前戦は気持ちも前に出ていましたが、今回はメンタルの面で前戦より弱気になっていたかもしれません。永山陽梨は練習で自己ベストの2分25秒台が出ていて、その調子で予選、決勝も行けるかと思ったんですが、やはり今回の難しい路面状況下では満足にペースを上げられませんでしたね。今シーズンのSRSは小排気量のスペシャリストの上田講師や山本講師に指導してもらい、データ解析や映像解析に特化した環境を整え、いいデータを集められました。とにかく結果が重要視される中、2名のチャンピオンを輩出出来た点ではいいシーズンでした。来シーズンはライダーの資質や人間性の育成といった点をより一層強化したいと思っています』

